

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成29年度)

2018年 3月 31日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 171-0014

所在地 東京都豊島区池袋2-23-23 白鳥ハイツ102号

評価機関名 特定非営利活動法人福祉推進機構アシスト

認証評価機関番号

機構 07 - 177

電話番号 03-6906-5231

代表者氏名 理事長 島田 久平

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

| 評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号 | 評価者氏名 | | 担当分野 | 修了者番号 |
|--|---|------------------|-------|-----------------|
| | ① | 中谷 猛 | 経営 | H1301012 |
| | ② | 廣田 伊志子 | 福祉 | H0801075 |
| | ③ | 吉野 良子 | 福祉 | H0901098 |
| | ④ | 島田 久平 | 福祉、経営 | H0702042 |
| | ⑤ | | | |
| | ⑥ | | | |
| 福祉サービス種別 | 多機能型事業所 | | | |
| | <input type="checkbox"/> 生活介護 | | | |
| | <input type="checkbox"/> 自立訓練(機能訓練) | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 自立訓練(生活訓練) | | | |
| | <input type="checkbox"/> 宿泊型自立訓練 | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 就労移行支援 | | | |
| | <input type="checkbox"/> 就労継続支援(A型) | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 就労継続支援(B型) | | | | |
| 評価対象事業所名称 | 青梅福祉作業所 | | | 指定番号 1312800236 |
| 事業所連絡先 | 〒 | 198-0043 | | |
| | 所在地 | 青梅市千ヶ瀬町3丁目393番4号 | | |
| | Tel | 0428-23-3612 | | |
| 事業所代表者氏名 | 所長 福田 和弘 | | | |
| 契約日 | 2017年 6月 22日 | | | |
| 利用者調査票配付日(実施日) | 2017年 10月 31日 | | | |
| 利用者調査結果報告日 | 2018年 3月 2日 | | | |
| 自己評価の調査票配付日 | 2017年 8月 8日 | | | |
| 自己評価結果報告日 | 2018年 3月 2日 | | | |
| 訪問調査日 | 2018年 3月 12日 | | | |
| 評価合議日 | 2018年 3月 21日 | | | |
| コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入) | 職員説明会では評価制度の趣旨や評価方法について丁寧に説明した。利用者調査にあたっては施設と事前に十分協議し、利用者の意向がより把握できるよう工夫した。事前に聞き取り調査にあたっての留意点について説明を受け、利用者に対し1対1の聞き取り調査を行った。訪問調査は評価者3人で行い、所長、副所長と面接し、実施状況について説明を受け意見交換を行った。 | | | |

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2018年 3月 31日

事業者代表者氏名 福田 和弘

印

| | |
|---|---|
| 1 | <p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> |
| | <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)利用者の人権尊重と利用者本位の支援 2)利用者や家族の安心・利用者の安全・安定した運営 3)希望に満ちた生活環境の提供 4)愛と信頼があふれる支援 5)専門性を生かしたサービスの提供</p> |
| 2 | <p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> |
| | <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> * 和を大切に、協調性のある人 * 決められたことを当たり前のように遂行する人 * 問題解決に意欲を持ち、分析、考察、行動ができ、自己研鑽力のある人 |
| | <p>(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 障害のある人が地域で暮らすことの大切さを知り、そこにおける当作業所の役割と責任に対する理解と探求と実践 * それぞれの自立をイメージし、ハビリテーションの考え方に基づき、励まし育む姿勢 |

| No. | 特に良いと思う点 | |
|-----|--------------|--|
| 1 | タイトル | 保護者連絡会は家族等の連携を図り、作業所の事業内容を共有している |
| | 内容 | 保護者連絡会は定期的に年6回隔月に開催されており、6ページにわたる盛りだくさんの内容を記載された会報も発行している。グループホームの利用者も多くなって、グループホームの世話人等が参加して作業所を知る機会となっている。常に新しい情報提供や参加家族からの質問にも応じ、透明な情報公開に努めている。作業所の運営状況や利用者現況、支援内容、作業実績や行事等について報告している。欠席者には資料を送付している。給食連絡会には家族等が試食し、食に関する意見交換も行っている。家族等とは信頼関係を日常的に図っている。 |
| 2 | タイトル | パソコンの活用で情報の共有化が進んでいる |
| | 内容 | 紙ベースであったものが、サーバに保存されていくことで、情報の共有や確認が進んできている。フォルダの整理を常に行って、ファイルを取り出しやすくし、効率よくパソコンを使えるように配慮している。利用者の情報にしても、例えば個別支援記録では毎日の記録が表になって見やすく記録されている。利用者の個別ファイルをはじめ職員会資料やマニュアルとの各種情報ファイル等が整理されている。これらの情報は必要に応じて取り出しダウンロードしプリントの紙ベースの資料として使用できる。アクセス権限もきちんと管理されている。 |
| 3 | タイトル | 様々な事情を持つ障害のある人を受け入れ、地域で安定した生活が送れるよう、可能な限り柔軟な支援に努めている |
| | 内容 | 作業所は「障害のある人が安定した地域生活を送れるように支援します」を基本理念としている。基本方針として働く意欲にこたえる作業の提供と工賃支給を第一に、地域の障害者の幸せや年を重ねても普通に暮らし普通に働くこと、セーフティネットの一翼を担うことも明示し、支援に努めている。利用希望者は条件を付けずに受け入れ、幅広い年齢層が様々な地域から通所している。中途退職者や引きこもりなど様々な背景と課題を持つ利用者には、グループホームや医療保健機関、行政と連携して、利用者個々に合わせて条件を整え柔軟に支援を行っている。 |
| No. | さらなる改善が望まれる点 | |
| 1 | タイトル | 職員意識の転換を図り、さらなる支援力の向上を図ることを期待したい |
| | 内容 | 作業所の職員は知的障害者への支援の経験も長くベテランが多い。ただ、入所施設からの異動も多く、家庭や地域生活の問題も支援の対象であることに認識の乏しい職員もおり、地域から通所してくる利用者への支援に消極的になる傾向もみられる。そのため、保護者や地域への対応、関係機関との調整が管理者等に集中している。また、就労支援事業所として蓄積してきた作業支援や就労支援のノウハウの伝達育成も課題となっている。まずは、職員のこれまでの経験を生かしつつ、OJTを重ねることで意識の転換を図り、支援力の向上を図ることを期待したい。 |
| 2 | タイトル | 事業環境の変化に対応し、事業種別の変更を検討することを期待したい |
| | 内容 | 作業所は移譲後、就労継続支援B型、就労移行支援、自立訓練の多機能型就労支援施設として運営してきた。一方地域で障害者施設の整備も進み、求められる事業種目も変わってきている。作業所は地域に住む障害者が普通に働き続けることを目指しており、利用者の高齢化が進む中、年を重ねても日中活動事業所に通えるよう就労継続支援B型の拡大が必要となっている。一方、自立訓練は、作業の合間の断続的な支援になりやすく利用者のモチベーション向上につながっていない。事業種別を、就労事業に特化する等、変化に対応した事業種別の検討を期待したい。 |
| 3 | タイトル | 地域に開かれた作業所として、利用者等が実感できることを目指した支援を望みたい |
| | 内容 | 作業所では、地域の自治会に加入しており、毎年春には、地域に根付いている町内会の祭りの日に合わせた施設開放を行って、利用者が住民と交流する楽しみな機会を設けている。日頃は地域のイベント情報なども還元している。活動の一環でも近隣周辺の様々な資源を活用しながら利用者は住民に支えられて過ごしている。今後は、利用者が支えられるだけでなく、作業所が地域の資源となることで、障がい特性への理解がさらにすすむよう、地域の人々との関係づくりに向けて、利用者と共に地域とのつながりを強める取り組みなどを旨とした支援を望みたい。 |

| 事業者が特に力を入れている取り組み① | | |
|--------------------|---|---------------------------|
| 評価項目 | 6-3-4 | 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している |
| タイトル① | 利用者に関する情報等を職員間で共有する仕組みが機能している | |
| 内容① | 個別支援計画検討会議は事務職、非常勤職員を含む全職員が参加し利用者のサービスを決定し、この内容を全員が共有し利用者を支援している。決定した支援計画は個別ファイルにとじ込んでいる。個別ファイルは個別支援計画やモニタリング、月ごとのプリント等と一緒にファイリングしている。会議の流れの仕組みが整理されて、現場スタッフの支援会議、主任、副主任の主任会議、職員会議と情報が伝えられていく。運営会議のメンバー所長、副所長、主任、副主任はいずれの会議にも参加し情報を把握している。サービスの変更が迅速に対応出来ている。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み② | | |
|--------------------|--|------------------------|
| 評価項目 | 6-4-3 | 利用者が健康を維持できるよう支援を行っている |
| タイトル② | 健康意識の向上を図るなど健康支援体制を整えている | |
| 内容② | 利用者の状況をきちんと把握して支援を行うように努めている作業所では、看護師が、毎日各グループの朝礼に参加し、利用者の日常の様子を観察して健康管理を行っている。必要に応じて血圧の測定なども実施する。囃託医（内科、精神科医）も毎月、診察を行い、利用者の健康相談にも対応している。定期健診、歯科検診なども実施している。朝礼後には看護師を中心に、健康体操が行われ、体力・筋肉の低下、リフレッシュ効果や心身の安定等を図っている。障がいのある人に働く場を提供するために作業種充実だけではなく、周辺環境充実への配慮も見られる。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み③ | | |
|--------------------|--|--|
| 評価項目 | 6-4-2 | 利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている |
| タイトル③ | 嗜好調査等を反映し充実した食事提供が実施されている | |
| 内容③ | 年1回、利用者から食事の嗜好調査を行い、主食・副食・デザート・好きなメニュー等を把握している。また、毎月職員、給食委託業者、家族で構成する給食連絡会を実施し、実食した家族からの感想や希望などを参考に、食事全般にわたる情報交換が行われている。さらに、給食業務を委託する業者とは普段からコミュニケーションを大切にしながら、個別に配慮した減量食、味付けの工夫などにも努めている。味覚や栄養量、彩り、メニューの調整、バランスの良い献立を適温で提供できるよう、よりおいしく食べて健康な体をつくる食事の向上を図っている。 | |